

琵琶湖森林づくり基本計画(第2期)(改定案)に対して提出された意見・情報とそれらに対する県の考え方について

番号	頁	意見・情報の概要	御意見に対する県の考え方
第2 森林・林業を取り巻く現状と課題			
1	7	本文の記述では、製品価格、原木価格の上昇と需要の増加に対応できないとあるが、その後どうなっているのか分からないので、木材供給の状況や価格の下落等の状況にも触れたらどうか。 先のウッドショックと連続的に発生しており、(11)のウッドショックと一連の現象として製品価格の高止まりが続いているという表記をされたらどうか。	御指摘のとおり、現在の状況を追記します。 (11)ウッドショックの影響 短期的な需要の増加に十分に対応できない状況が発生しました。その後、国産材の供給力を強化するため、乾燥施設整備による木材製品の供給力強化や原木の安定供給に向けた間伐・路網整備の更なる推進等が行われました。
2	7	「製品価格は高止まりしています。」とあるが、1年前は高止まりしていたと思われるが、現在、木材価格は下落傾向にある。記述を変更すべきではないか。	現在、原木価格は下落傾向にあり、ウッドショック以前の水準に戻りつつあります。
3	7	ロシアのウクライナ侵攻でロシア材や欧州材の供給不足が懸念されたことはその通りであるが、輸入材の過不足や製材品の価格は、ロシア材、欧州材だけではなく、米材、ニュージーランド材等の現地の生産の状況、さらには米国、欧州、中国の需要および価格の動向や国内の需要動向など、多くの要因が複雑に絡むものである。「ロシアのウクライナ侵攻による影響」という項目に対して、「結果として、供給不足は起こりませんでした」とするのは、十分な説明にはなっていない。	(12)ロシアのウクライナ侵攻による影響 製品価格は高止まりしました。現在、製品価格は下落傾向にありますが、ウッドショック以前と比べ高い水準で推移しています。 世界情勢不安が続く中、国産材の安定供給に期待が高まっています。
第3 琵琶湖森林づくり基本計画(第1期)の取組総括			
第4 基本計画が目指す森林づくりの方向			
3 方針に基づく施策の考え方			
4	21	「やまの資源」→「やまの」の意図は何か。山側の関係者としては、従来どおりの「森林資源」の方が馴染む。	「やま」とひらがなで表現しているのは、従来の森林資源(木材資源)にとどまらず、新たな森林空間利用を含めた概念を「やま」と表現しています。
5	24	このグラフでは、現状がほぼそのまま50年後に移行したとしか見えない。 32頁の2行目に、「主伐・再造林が進み、バランスの取れた林齢構成を目指す。」と記述されており、それに見合った50年後の姿を見せるべき。	バランスの取れた林齢構成を目指すため、関係団体と協力し、50年後以降も引き続き主伐・再造林に取り組む必要があると認識しています。 御意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。
6	34	2行目以降、SDGsには17の目標があると記載されているが、MLGsはSDGsに比べるとマイナーな目標かと考えられるので、MLGsの簡単な説明を記載されてはどうか。	御指摘のとおり、MLGsの指標に対する説明を追加します。(P15)
7	34	34～35ページにはSDGsのゴール・ターゲットが記載されているが、36ページではMLGsのゴールが記号で書いてあるだけで、MLGsのゴールの説明がなくSDGsとMLGsの関連性が分かりにくい。	
第5 施策の体系			
第6 基本施策			
1 多面的機能の持続的発揮に向けた森林づくり			
8	38	年間再造林面積の目標値がR7年度50haとなっているが、全国的な再造林率は大変低く35%台と伺っています。 伐採が進んでも再造林率が低ければ放置林が増え災害の発生につながるので再造林面積だけではなく、追加で再造林率の数値目標の設定をされるよう提案します。 また、他府県で行っている数年以内に再造林するような施策を設け、再造林率の向上を促すようお願い致します。	主伐後の再造林については、琵琶湖を擁する当県として、資源の確保や森林の多面的機能の確保の観点から、大変重要であると認識しています。 御意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。

9	40	<p>「流域の広域的な課題」と記載している一方で、それに対する取組が「治山事業」という具体的内容となっているため、推進されていく森林づくりのイメージが伝わりにくいと思います。</p> <p>また、「流域の広域的な課題に対し」という記載が、流域治水対策も意識されたものであれば、「土砂発生源対策の取組」としての「治山事業」だけでなく、38ページの8項目に記載のあるように、「雨水貯留浸透機能」のための『森林整備』も併せて推進していくといった内容で明記いただけないでしょうか。</p>	<p>雨水貯留浸透機能は、治山事業や森林整備により発揮される機能のひとつであり、御意見のことについては多面的の持続的発揮に向けた森林づくりの取組に含まれることから、原案のとおりとします。</p>
2 多様な主体との協働により進める森林・林業・山村づくり			
10	42	<p>キャンプ場の大きな施設を作るといいかもしれないと思う。オートサイトフリーサイトキャビンバンガローコテージ大中小グランピング。子向けの大型遊具遊歩道の設置。琵琶湖で泳いだりスポーツする人にむけて優待券などのサービス。いろんな客層を呼び込めるような大きなキャンプ場にこれらを作るのも滋賀県でお金を落としてもらえきっかけになると思う。</p>	<p>県内の森林サービス産業に関わる取組状況として、県内各地でキャンプ場の新設やリニューアル等が行われており、県の魅力向上が図られています。</p> <p>御意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
3 森林資源の循環利用による林業の成長産業化			
11	44	<p>収入が少ないこと、不安定では新規に人は林業の仕事につかないだろうから、基本給40万を県が保障し、それ以上は各企業で歩合制などにするのはどうでしょうか。</p> <p>また、機械を導入してより作業しやすくするにしてもその元手になる資金が厳しいだろうから、県などがその7割くらい補助してはどうでしょうか。</p> <p>木材を乾燥させたり加工する場所に困るなら、大型の倉庫などを県が建てて、事業者に貸すのはどうでしょうか。</p> <p>木材関連事業者向けにどこかの広い土地を工業団地のように開拓して誘致するのもいいかもしれません。</p> <p>林業関係で収入や、滋賀県の発展を考える場合、他の都道府県よりも、林業関係の人にとってより魅力となるポイントを作らなくてはならないと思います。そのためには、滋賀県もしっかり負担をしなくてはならないとおもいます。</p>	<p>林業就業者の所得向上は、ICTの活用や高性能林業機械の導入による生産性の向上等により実現する必要があります。</p> <p>林業事業者への支援や高性能林業機械の導入に対する補助、木材流通に対する支援については、今後も引き続き実施してまいります。</p> <p>御意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
12	45	<p>大型製材工場の設置に向けて、何が課題でどのような検討を行うか具体的に記述すべき。</p> <p>特に、大型製材工場にとって、原木の確保が最大のポイントであることから、県産材の生産拡大や安定供給体制の整備は不可欠な要素である。</p>	<p>具体的な課題の整理や望ましい姿については、今後関係団体と連携し取組を進めてまいります。</p>
13	46	<p>「デジタル技術を活用した合法木材のトレーサビリティシステムの構築」とあるが、木材は製材されればいろんな部材に分かれていく。具体的にどのように実施するのか。</p>	<p>具体的な手法については、今後関係団体と連携し取組を進めてまいります。</p>

14	46	<p>木質バイオマスは乾燥工程に数か月から数年の経過が必要なことから需給ギャップが生産者の負担となっている。</p> <p>よって、「県(自治体)が需要拡大と生産者への支援を同時に行う」の旨を記載する。</p> <p>又、建築木材以外の需要として薪・木炭の生産を提案する。</p> <p>生産者の収入源を多様化する際の支援として需要増減に対する調整の案として下記2案を提案する。</p> <p>案1自治体の防災用備蓄燃料として滋賀産材を使用した薪・木炭を購入・備蓄する。</p> <p>「キャンプ等の民間需要が少ない場合に備蓄向けを増やす」などを行い生産者支援とする。</p> <p>災害時及び防災訓練や学校等での野外活動教育で備蓄した薪・木炭を使用する。</p> <p>今後の展開として生産技術の高度化により浄水設備向け活性炭が生産できれば滋賀県の水道料金が県外へ流出することを軽減できることを期待する。</p> <p>案2ゴミ焼却場の助燃材に粉末木炭を使用する。</p> <p>効果として灯油など化石燃料の削減となる。</p> <p>将来において高齢化や生活様式の変化などの要因で一般ごみの水分量増加により灯油等の使用量増加が考えられる。</p> <p>ダイオキシン関連や燃料費高騰、温暖化対策などの課題の対策として粉末木炭の利用を検討してはどうか。</p>	<p>御意見のとおり、木質バイオマスの利用については、今後も新たな用途の開拓や研究開発の必要があります。</p> <p>御意見については、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
15	46	<p>「低炭素社会の構築に寄与」という記載について、内容に間違いはないと思いますが、近年では『脱炭素社会』という言葉が耳にすることが多いため、少し違和感を覚えます。計画内でも「脱炭素社会」という記載が使用されているため、記載を合わせてはどうでしょうか。</p>	<p>御意見を踏まえ、以下のとおり修正することとします。</p> <p>①未利用となっている木質バイオマスを有効利用することは、脱炭素社会の構築に寄与することから、木質バイオマスのエネルギー利用を促進します。</p>
16	47	<p>県の整備する公共施設のびわ湖材による内装等木質化率 令和3年度で80% 令和12年度で100% とあるが、この表現であれば、県立施設全てで木質化ができるように思われる。</p> <p>県の整備する公共施設の説明が必要ではないか。</p>	<p>御意見を踏まえ、指標に注釈を追加します。</p> <p>※県が新たに建築もしくは改修する際に、内装および外装にびわ湖材を使用した公共建築物を対象とする。法令上、木材利用ができない建築物や小規模な改修は除く。</p>
17	47	<p>県の整備する公共施設のびわ湖材による内装等木質化率 令和3年度で80% 令和12年度で100% とあるが この表現であれば、県立施設全てで木質化ができるように思われる。</p> <p>県の整備する公共施設の説明が必要ではないか。</p>	
4 豊かな森林を未来に引き継ぐ人づくりの推進			
18	48	<p>「架線技術者や」・・・を育成しますとあるが、林災防滋賀県支部では「林業架線作業主任者免許取得講習」を平成8年度まで行っていたが、受講者が少ないためそれ以降実施していない。県内で講習会を実施していない中、どのようにして育成するのか。できるのか。</p>	<p>滋賀もりづくりアカデミーにおいて、架線技術者育成の取組を始めています。架線技術に必要な資格の取得支援についても、今後関係団体と連携し取組を進めてまいります。</p>
19	49	<p>滋賀もりづくりアカデミーの林業就業者数はR12までに60名となっているのに対し、下記に林業就業者数がR3年度243名→R12年度250人(約102%増加)と低迷した目標数値です。</p> <p>もう少し高い目標値にされてはどうでしょうか。</p>	<p>県内の林業就業者は、60～70代が1/3を占めており、今後、高齢層の退職が予想されます。</p> <p>林業労働力確保支援センターや滋賀もりづくりアカデミーにより新規就業者を確保するとともに、ICTの活用や高性能林業機械の導入を進める中で生産性の向上を図ってまいります。</p>
第7 重点プロジェクト			
第8 指標と主なSDGsターゲットとの関連			
第9 推進体制			